

まちづくり市民ワークショップ

【第2回 報告書】



令和7年12月
龍ヶ崎市

目 次

I	ワークショップについて	1
1.	ワークショップの目的	1
2.	ワークショップのテーマ	1
3.	ワークショップについて	1
II	ワークショップ（第2回）の進め方	3
III	ワークショップ（第2回）の結果について	4
1.	開催の概要について	4
2.	グループワークの成果	5

I ワークショップについて

1. ワークショップの目的

- 「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」は、本市のまちづくりの基本的な方向を示す最上位の計画で、令和5年(2023年)1月から令和13年(2031年)3月までのおおむね8年間を計画期間としています。
- さらに、この計画では、将来ビジョンを実現するため、計画期間の8年間を前期と後期に区分して基本計画を策定することとしており、令和8年度末までが前期基本計画の期間となっています。
- このワークショップでは、令和9年度以降の基本的な施策の方向や体系などを示す後期基本計画を策定するため、市民の皆様から、市政の各分野の現状や課題に関するご意見をいただくとともに、後期基本計画の策定に向けて、市民の皆様がどのような取組を求めているかをお聞きするほか、それらの取組を市民の皆様とどのように進めていくべきかなどについて、一緒に考える機会とさせていただくことを目的に開催しました。

2. ワークショップのテーマ

前項をもとに、このワークショップの全体テーマを次のように設定しています。

【ワークショップ全体のテーマ】

～龍ヶ崎市を“こんな暮らしができるまち”にしたい～

3. ワークショップについて

(1) 検討方法

- ワークショップは2回開催し、現状や課題の整理、各テーマについての提案を行います。
- ワークショップでは、市政の分野をもとに4グループに分け、各グループで関連する2テーマを議論します。

回数	開催日	グループ			
		A ひとづくり	B 健康・くらしづくり	C 賑わい・活かづくり	D くらしづくり
		分野①、②	分野③、④	分野⑤、⑥	分野⑦、⑧
1回目	10月18日(土)	各分野の現状について、良いところや課題などを共有・深堀り			
2回目	11月22日(土)	第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、施策や取組を提案			

(2) グループ（分野）の設定について

グループ	分 野	テーマ	
		グループ	共通
A ひとづくり	①子育て・若者支援 〔次世代を担うひとづくり〕 ②学校教育・生涯学習 〔学びを楽しむ環境づくり〕	A-① 「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」にするためには	○市民からの発信・発意を促進し、市民協働でまちづくりを進めるには
		A-② 「全ての世代が学ぶことを楽しむことができるまち」にするためには	
B 健康・ くらしづくり	③健康・スポーツ 〔健康を創り、支える環境づくり〕 ④共生社会(地域共生、多文化共生)、地域コミュニティ 〔地域共生社会づくり〕	B-① 「全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまち」にするためには	
		B-② 「支え合いや交流が育まれるまち」にするためには	
C 賑わい・ 活力づくり	⑤産業・経済、市街地活性化 〔龍ヶ崎の活力づくり〕 ⑥観光交流、情報発信、移住・定住 〔地域間交流と魅力づくり〕	C-① 「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、女性活躍を実現するまち」にするためには	
		C-② 「龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまち」にするためには	
D くらしづくり	⑦防災・暮らしの安全・安心 〔安心・安全を実感できる環境づくり〕 ⑧生活環境・都市計画 〔暮らしやすいまちの基盤づくり〕	D-① 「激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまち」にするためには	
		D-② 「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまち」にするためには	

Ⅱ ワークショップ（第2回）の進め方

①自己紹介・前回の振り返り・役割決め

- 一人ずつ自己紹介(お名前・年齢・職業など)。
- 第1回で話し合った内容の再確認。
- グループで作業を進めるため、①進行 ②書記 ③発表者を決定。

※第1回WSを欠席した方など、第2回WSから参加する方がいたため、再度の自己紹介の時間を設けたほか、第1回WSの振り返りの時間や、新規参加者の意見を取り入れる時間も設定した。

②グループワーク

- 進行役が、各テーマについての意見交換を進める。

【意見の出し方・まとめ方】

○意見については、用意した付箋を用いて、次のような手順で作業を実施。

- 手順1 テーマについて自分の意見を付箋に記入。
- 手順2 テーマについて、手順1の意見を発表しながら、付箋をシートに貼り付ける。
他の人の意見を聞いて、同じ意見だった場合は、自身の付箋も貼っていく。
- 手順3 手順2でまとめた「似ている意見」のポイントをまとめる。
※書記の方が、グルーピングやまとめを記入。

○各グループで、2つのテーマについて検討するので、それぞれで、【意見の出し方・まとめ方】の手順を繰り返す。

③発表

- 作業シートをホワイトボードや壁面に掲出し、発表者が説明。

IV ワークショップ（第2回）の結果について

1. 開催の概要について

(1) 開催日時 等

- 開催日時：令和7年11月22日（土）13：00～17：00
- 場 所：多世代交流センターRINK コミュニティホール
- 参加者：22名

(2) タイムスケジュール

項目	時刻	時間	内容
オリエンテーション	13：00	5分	挨拶
ワークショップ	13：05	10分	第2回ワークショップの内容
	13：15	30分	<input type="checkbox"/> 自己紹介 <input type="checkbox"/> 前回の振り返り+新参加者の意見 <input type="checkbox"/> 役割決め（発表者、進行、書記）
	13：45	50分	<input type="checkbox"/> グループワーク①
	14：35	10分	[休 憩]
	14：45	5分	<input type="checkbox"/> 写真撮影
	14：50	50分	<input type="checkbox"/> グループワーク②
	15：40	10分	<input type="checkbox"/> まとめ
共有（発表）	15：50	40分	各グループ作業結果を発表 （各グループ10分ずつ）
講 評	16：30	5分	発表された内容についての講評
閉 会	16：35	-	



【会場全体】オリエンテーション中の様子

2. グループワークの成果

■グループAの成果

■「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」にするためには

(1) 発表要旨

「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」を目指し、提案を4テーマで整理した。

①暮らしやすいまちでは、まちなか再生を進めるための運営チームの設置を提案し、行政には商店街の駐車場・駐輪場不足、イベント時にトイレが使えないなどの受け入れ環境の整備を求めた。また「どらすて」が高齢者の居場所に偏っている現状を踏まえ、若者も利用しやすく開放することを要望した。

②0歳～18歳まで切れ目ない居場所づくりでは、地域の学校を居場所として活用する仕組みづくりを提案し、財源確保のためふるさと納税の強化や、長山小・松葉小の空き教室活用を挙げた。朝夕に学校が早く閉まり子どもの居場所が不足している点は、見守り隊を募集して市民参加で安全面を担保し、早急に学校開放を進めるべきとした。

③男性社会の脱却では、2人目・3人目の子育てを見据え、家庭内だけでなく地域全体で子育て世代を支える仕組みが必要で、父性を育てる視点や、親育て講座など継続的に学べる場の整備を提案。市民に求められるのは、夫婦の意識改革と学ぶ姿勢、家庭を育む姿勢だとした。

④経済的支援では、金銭的不安の解消が出産・子育て継続や移住促進につながるとして、医療費・教育費・給食費の無償化など大胆な支援策の実施を求めた。加えて空き家については、所有者が貸せない理由を掘り下げ、条件整理と利用希望者の橋渡しを行政が担い、大学生・高校生・起業希望者に開放することで、街中の活性化にもつなげるべきだとまとめた。



☞ 【A班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
暮らしやすいまち	まちなか再生の運営チームを作る	駐車場（駐輪場）の整備 お手洗いの整備（土・日曜日） 商工会のお手洗いの利用	商工会の意識改革 小野瀬邸の銀杏拾い 看板（商店）の見学会 街並みに並べる 積極的に声をあげる
		どらすてを若者向けに！	
0才～18才まで切れ目ない居場所づくり	地域にある学校を活用する仕組みづくり	空家の事情や条件を深掘する	
		大学生・高校生に貸してくれる店舗を探す	
		商店街の空き地に仲介する	
		担当窓口を作ってもらう	
		大学生の起業「商店街」	
		ふるさと納税に力を入れよう！	
		長山小学校・松葉小学校の空き教室活用	
		朝夕の学校の開放 速やかに！	
		見守り隊の募集	見守り隊への参加
		遊ぶのは自己責任 安価な保険への加入システム	
男性社会の脱却	父性を育てる	親育て講座	夫婦の意識改革
経済的支援	大規模な施策改革をして移住者を増やす		

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「若者や子育て世代が暮らしやすいまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■若者や子育て世代が暮らしやすいまちにするための目標

②「若者や子育て世代が暮らしやすいまちにするための」施策・取組みと「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案	取り組む際の役割				
				行政にやって欲しいこと	市民ができること			
暮らしやすいまち		たつこ。お手洗いきれいになって good	まちなか再生の運営チームを作る	駐車(輪)場の整備	商工会の意識改革			
		子育て世代を呼び込む。東京から、住宅費		(土・日)のお手洗いの整備		商工会のお手洗いの利用	小野瀬のギンナン拾い	看板(商店)の見学会 街並みに並べる
		長い移動→金銭面(不)都心とは遠い。時間もかかる。		どらすてを若者向けに!		積極的に声をあげる		
		空き家の活用→公的施設						
0才~18才まで切れ目ない居場所づくり		学童保育の時間拡大	地域にある学校を活用する ↓ 仕組みづくり	空き家の事情や条件を深掘りする	大学生・高校生に貸してくれる店舗を探す	大学生の起業「商店街」		
		小学校が朝から開放されている		商店街の空き家の件介をする(草加市)	担当窓口を作ってもらう			
		地域みんなで子育て		ふるさと納税に力を入れよう!				
		コミュニティセンターの活用		長山小・松葉小の空き教室活用	朝夕の学校の開放速やかに!	見守り隊への参加		
		進む高齢化→高齢者が交わる施設・イベント(自治会など)コミュニティ館 etc.		見守り隊の募集	遊ぶのは自己責任・安価な保険への加入システム			
		預け先がもっとほしい						
男性社会の脱却		家事・育児の分担をあたり前に	父性を育てる	子育て講座	夫婦の意識改革			
		働く女性が安心して2人・3人子育てができる						
		男性育休最低1カ月						
経済的支援		金銭的不安	子育てのための 大胆な施策改革をして移住者を増やす!					
		医療費無償化 0~18						
		本当の!! 教育費無償化 0~18 給食費無償化 保育園~中学 0~15						

①子育て・若者支援(分世代を担うこと)

■「すべての世代が学ぶことを楽しむことができるまち」にするためには

(1) 発表要旨

本日の議論では、(1)オンライン配信による学ぶ機会の提供と(2)生涯学びの提供の2点に絞って進めた。

(1)オンライン配信による学ぶ機会の提供では、前提として IT 知識や PC 機材を扱える若い世代の人材が不足しているため、行政が人材を確保したうえで、PC 作業が得意な人につなぐ支援、講座のオンライン配信とアーカイブ化、市民講座のポータルサイト整備を提案した。市民側には、文化財を増やし活用する意識と、子どもに限らず大人も含めて「学び続け、考え続ける姿勢」が重要だと整理。あわせて、誰もが学び続けられる仕組みとして職業訓練の場を増やすこと、隣接する赤レンガ（旧諸岡家住宅煉瓦門及び塀）で行っている取組の拡充にも触れた。

(2)生涯学びの提供では、龍ヶ崎の文化継承情報を共有し、専門知識を持つ人材不足を補うためまちづくりコーディネーター**の募集を行政に求めた。市民はまず興味を持って参加することが出発点で、登録文化財を活用したイベント企画や、歴史ある街並みを「レトロ」として市外へ PR する案が出た。具体例として、商店街中心部の2つの登録文化財(約300m圏)を活かし、赤レンガで野外・屋内ステージを設け、三味線や琴などの出演者を募る企画を継続して認知度を高め、市民の裾野を広げたいとした。



☞ 【A班】発表中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
オンライン配信学ぶ機会の提供	誰もが学び続けられる仕組みづくり	小野瀬邸で茶会	文化財を増やす 学び考え続ける姿勢を持つ
		職業訓練所を増やす	
		赤レンガでやっているイベントを拡充	
		PC 作業等得意な方につなぐサービス	
		市民講座のポータルサイト	
		IT 機器を使えるような場	
		オンライン配信アーカイブ機能の活用	
生涯学びの提供	龍ヶ崎の文化継承情報共有	まちづくりコーディネーター	(イベント等に) 興味を持ち参加する
			登録文化財を活用するイベント企画
			歴史ある街並みをレトロな表現で市外に PR

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、

「全ての世代が学ぶことを楽しむことができるまち」にするためには

施策や取組みを提案してください。

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■全ての世代が学ぶことを楽しむことができるまちにするための目標

②「全ての世代が学ぶことを楽しむことができるまちにするための」の「施策・取組み」と「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案	取り組む際の役割				
				行政にやって欲しいこと	市民ができること			
②学校教育・生涯学習 〔学びを楽しむ環境づくり〕	中高生の きっかけの場	中・高生の交流センター <u>文京区 b-lab</u>						
		寺子屋						
		市民活動センターの利用						
		<u>廃校活用</u>	小野瀬 (登録文化財) で茶会					
	オンライン配信 学ぶ機会の提供	オンラインで学べる キャリア教育講座		職業訓練所 を増やす	赤レンガ(内聯) でやっている のを拡充	PC作業等 得意な方に つなぐサービス	市民講座の ポータルサイト	文化財を 増やす
		<u>オンライン配信してほしい</u>	誰もが 学び続けられる 仕組みづくり			IT機器を 使えるような場		学び考え 続ける姿勢
	小・中学校の 体験学習	中学生のお金の教育				オンライン配信 アーカイブ機能 の活用		
		高校生との女性のキャリア 座談会						
		コミュニティスクールで 地域で子育て						
		<u>学童の充実</u>						
		子供の自然体験学習						
		<u>放課後の学校開放</u>						
	生涯学びの 提供	市民大学の充実		龍ヶ崎の 文化継承 情報共有			まちづくり コーディネーター	興味をもち 参加する
		働く女性のための学びの 講座						登録文化財 を活用する イベント企画
	具体的な イベント概要	インド式 九九の普及						
		たつのこ山でオセロ大会						

■グループBの成果

■「全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまち」にするためには

(1) 発表要旨

5つのテーマを設定し、議論を行った。

①孤立については、孤独そのものより「孤独の結果として生じる孤立」が問題だと捉え、孤独を楽しめる環境として、孤独だが孤立はしない居場所づくり、一人で作業できる皆の作業室、交流のきっかけとなるグリーンデイ（市内一斉清掃）の回数の増加が提案された。行政には、作業室の場所・情報・参加フォーマット提供、市内一斉清掃を年1回から年2回にするなど回数増と日程調整を求め、市民は参加・登録・継続参加で支えるとした。

②運動行事では、市内を回るウォーキングスタンプラリーの実施や、コミュニティセンター行事に子どもも含めて参加するように展開し、地区対抗の競技や市全体の大会につなげる。また、長寿会のグラウンドゴルフのオープン化、朝のラジオ体操普及が提案された。また、行政は大会運営と行事の一括周知、市民は楽しめる内容づくりと運営・参加を担うとした。

③健康・体力チェックは、広い世代向けに定期的な体力測定を複数会場で実施し、ラジオ体操の場所提供や参加特典（シール等）で参加を促進するとした。行政は場所・人手の確保と統計収集、データの見える化でやりがいを高める。市民は参加し、近所に声をかけ交流を増やすとした。

④現状の課題として、公民館講座の募集枠制限の改善、各センター講座の共有をアナログ・デジタル両面で行うこと、男性利用者が少ない要因を分析し参加しづらさがあれば改善することを挙げた。

⑤行政の支援では、個々の特性に合う情報提供やDXにより情報が届きやすくし、行政は継続発信、市民は情報を確認し活用することが重要だとまとめた。



【B班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
孤立	居場所作り 「孤立」をなくすため	場所、フォーマットの情報	会員登録 実際に来てもらう
	「皆の作業室」～一人になれる場所～の提案		
	グリーンデイ（市内一斉清掃）の増加。	市が回数を増やす	引き続き参加
運動行事	市内各所をまわるウォーキングスタンプラリー	市の大会運営	市民が意欲的に参加する。 子どもが楽しめる内容。
	長寿会のグランドゴルフ等の活動のオープン化		
	コミュニティセンターごとに競技を行い、市全体で代表者の競技を行う		
	朝のラジオ体操の普及・促進		
	コミュニティセンターごとに行っている行事を、子どもも含めて行う	コミュニティセンターごとのお知らせする	コミュニティセンターごとの運営
健康・体力チェック	広い年代に向けた健康増進の取組として、体力測定を定期的に行う。	測定場所、人手の提供	参加する。 同年代の交流が図れる。
		統計を通して市民の健康増進への取組の見える化	
		児童・生徒に健康診断を行い、結果を親子で共有。健康について早くから意識づけを行う。	
	ラジオ体操の場所の提供・促進	普及促進。参加したらシールをもらえるなど。	
	グランドゴルフ等、長寿会で実施している競技の普及	コミュニティセンターごとに行ってもらい、市は大会を開くほか、そのサポート。	
	地区ごとの取組の違いを広報紙等で紹介	広報紙等で紹介	
現状の課題	コミュニティセンターの講座（健康麻雀）の募集枠の制限の改善	枠を広げる 先着でなく抽選にする	改善の提案
	コミュニティセンターの講座の情報の共有	市広報紙や市公式 LINE でのお知らせ	
	コミュニティセンターの講座の内容の改善 現在、女性向けの講座が多すぎる		
行政による支援	市民個々の特性に合わせた情報の提供。DX。	情報発信。	

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「全ての市民が健康で暮らせるよう、
健康福祉の取組やスポーツを推進するまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまちにするための目標

②「全ての市民が健康で暮らせるよう、健康福祉の取組やスポーツを推進するまちにするための」の「施策・取組み」と「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案	取り組む際の役割	
				行政にやって欲しいこと	市民ができること
孤立	ひきこもっている方の楽しみは？お洒などで体に悪い ひきこもりが一番問題 特に男性	居場所作り「孤立」をなくすため	「皆の作業室」 ～一人になれる場所～ の提案	場所フォーマットの提供	会員登録 実際に来てもらう
		ひきこもりの原因は民主委員さん。大抵、本人が興味を持てないような「しかり」がほしい。ほしい。 ひきこもり＝孤立。地域になじんでいない。男性は特に心配	クリーンティの増加、月1回くらい地域コミュニティに役立っている。	市が回数増やす	市内一斉清掃を現在年2回を 集まれる日程を
運動行事	ウォーキング大会などあったら、若者は来るか？一人ではムリ。 イベント、祭りを開催。そこまでの歩さを意識させる。 子ども会との連携で、夏：ラジオ体操、冬：もちつき など 児童とコミュニティセンターが協力して、子どもから大人まで運動の機会をつくる。 松葉地区、長山地区、小学校校庭で毎朝ラジオ体操が行われている。調性知りが増えている。 子ども会とつながって、ラジオ体操ができればいいのでは。 ハイキングをコミュニティセンターで毎年行っている(松葉)20名くらい行事として取り組んでいる。市のバスを活用 コムセン主催のイベント(運動)をやる	市内各所をまわる ウォーキングスタンプラリー それぞれのコミュニティセンターに行っている行事を、子どもも認めて行く コムセンセンターごとに競歩を行い、各会場で代表者の競歩を行う	長寿会の グラウンドゴルフ等の活動の オープン化 朝のラジオ体操の普及・促進	市の大会運営	市民が意欲的に参加する。 子どもが楽しめる内容
	50歳や60歳で地域ごとに集まって、体力測定があれば？リタイア前につながりができた 体力測定を定期的に同じ、自分の体力を自覚。参加者にシール、ポイントなどほおぶ。次回まで向上目標に、競走知りも通。 元気アップ体操。参加者の8割9割は女性。高齢男性の参加は少ない。 若い、年齢に関わらず、日頃運動不足の方が多いと思う。市で体力測定健診会があり、ごほうびにシールなど	行政支援 1. 定期的な体力測定(個人別測定、柔軟性など)を 2. 町内各所で実施 3. 定期的な体力測定(個人別測定、柔軟性など)を 4. 町内各所で実施 5. 定期的な体力測定(個人別測定、柔軟性など)を 6. 町内各所で実施	グラウンドゴルフ(松葉、久寿)スタンプ、おなじみ長寿会でやっている。 長寿会だけでなく、他の町内会でも取り組むか。 やっている地区と取り組んでいない地区の違いをいろいろはーなどで取材して紹介	測定場所、人手の確保、経費をとって市民の健康増進への取り組みの見える化 ラジオ体操をもっと広めたい。 ラジオ体操に参加したらシールをもらえるなど。	・市民は参加する ・同年代の交流が図れる
健康体力チェック	長寿会は価値観の多様化で衰退がみられる。 若狭市市街地はコミュニティが濃い。ニュータウンではつながりが希薄。 声を出してもほほえんでみてくれてもらえたら、若者もうれしいのでは 自分の経験のないスポーツに触れ合う機会は少ない 男性の参加者は少ない 興味を持ってもらえるようにする	公民館市民講座(健康講座)の募集枠の制限の改善 定期的な体力測定(個人別測定、柔軟性など)を町内各所で実施 定期的な体力測定(個人別測定、柔軟性など)を町内各所で実施 定期的な体力測定(個人別測定、柔軟性など)を町内各所で実施	行政は ・控を広げる ・先着順でなく抽選にする ベタング、健康マージャンなど、項目別にどこでやることができるか、知りたい市民はいると思う。	市民は改善を提案する	
現状の課題	万歩計と連携させて、ポイントがたまると刺激になって、ごほうびもある。 興味のある方は調べて参加もできるが、周知が少ないので参加へのハードルが高い。タツ組くん？ 運動できる公園が近くにあるのか？周知されていない。知らない方が多い。 公園に大人向けの健康づくりのための道具があるとか、気軽に利用できてフレイル予防につながると思う。 公園でボール遊び禁止など、規則が厳しいと言者が公園に来てゲームになるかも 健康体操など市内で実施されていると聞いているが、参加の仕方がわからない。 体操は特別募集はしていない。友人とかの紹介に限られると手がない。 スポーツイベントのさらなる周知	市民層々の特性に合わせた情報の提供 デジタル上ランタイムフォーメーション(つくば市)	行政は情報を発信する		
行政による支援					

③健康・スポーツ「健康を創り、支える環境づくり」

■「支え合いや交流が育まれるまち」にするためには

(1) 発表要旨

2つ目の「支え合いや交流が育まれるまち」については、3つのテーマに絞って提案した。

①ご近所付き合いでは、価値観の多様化で関係づくりが難しい時代だからこそ、まずはイベントを「踏み台」にして、地域が関われるきっかけを増やすべきだとした。行政には、例えば防犯パトロール、クリーンデー、バス旅行などの機会を増やし、参加の土台をつくることを要望。市民にできることは、何より参加することで、参加がなければ関係は生まれないと強調した。

②小中学校と高校・大学の地域とのつながりでは、龍ヶ崎には流通経済大学とのパイプがある一方、小中学校や高校との連携状況が見えにくい点を課題として挙げた。龍ヶ崎市駅でのイルミネーション設置事業のように、地域の「おやじの会」等を母体に大学生・高校生も参加する取組があるので、さらに広げてほしいと述べた。一方で、現状は間口が狭く、知っている人しか参加しづらい状況のため、市が情報発信して参加しやすくするべきだと考えた。また、市民は情報をキャッチして参加することが求められるとした。

③歴史・文化の継承では、特に重要なのが撞舞であり、人口減少で担い手確保が難しくなる前に保全を進める必要があると指摘。撞舞は中国伝来で利根町布川でも行われていたが、担い手不足から実施されなくなったとの話もあり、龍ヶ崎市も将来の継承危機に備えるべきだとした。加えて、歴史民俗コーナーを設け、龍ヶ崎出身の偉人を紹介するなど、郷土愛を育てる「情報発信」と「場所づくり」を提案し、最後は市民が参加し支えることが重要だとまとめた。



📷 【B班】発表中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
ご近所 づきあい	交流の場、交流の機 会の増加	防犯パトロール、 グリーンデイ、 バスツアーの機会を増やす	最低限のつきあい・ 交流は維持した方がよい！
	龍ヶ崎市駅前のイル ミネーション 大学生と地域の交流		
小中学校と 高校・大学 の地域との つながり	流通経済大学の社会 人向けの講座があれ ばいいのでは。		
	地域と学校の連携 イベント・運動会な どの検討の実施	検討の場の提供	議論の参加 いろいろな意見がある
歴史・文化 の継承	龍ヶ崎出身の偉人の 紹介をするコーナー が歴史民俗資料館に あれば郷土愛が生ま れるのでは	歴史民俗資料館の周知に力を 入れてほしい 龍ヶ崎市には字（あざ）が ないのはなぜ？など、 地元の歴史を知る コーナーもあったら	
	撞舞の継続	継続・伝承の支援	祭りの継続

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「支え合いや交流が育まれるまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■支え合いや交流が育まれるまちにするための目標

②「支え合いや交流が育まれるまちにするため」の「施策・取組み」と「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案	取り組む際の役割		
				行政にやって欲しいこと	市民ができること	
④ 共生社会（地域共生、多文化共生）、地域コミュニティ（地域共生社会づくり）	異文化理解 (共生)	グローバル視点の必要性。取手・つくばは交流圏があり、留学とかしている。龍ヶ崎市は相手がない 外国の方との共生について。ゴミのルールを守らない。どんちゃん騒ぎなどと言われている。 外国人との交流について。国際交流協会の方が担当しているのは知っている。一般人は参加する機会が少ない。 まだ龍ヶ崎では外国の方との大きな問題は起こっていないのではないかな。				
	ご近所 付き合い	コミュニティづくり	価値観の相違 多様化もあり、 難しい時代	普段の付き合いはなくても、災害時にはつながれるために必要ではないか。		
		住民の意識	高齢で班長できないと町内会を抜ける人、回覧板もいらぬと抜ける若い人もいる。ゴミ問題など困る。 自治会に入る入らないは住民の意思。やむを得ない部分もある。班長は何歳から候補とかないから負担もある。 北文朗、若果など、古くからの方は顔がわかる。ニュータウンはとなりの方もわからない。 地区の班長さんが回ってきた。近所の方が何に困っているのか？情報共有が希薄。住民意識がちがう。	長寿会は市のバスでバス旅行に行っている。自治会で安いバス旅行があれば交流できるのでは？ 防犯パトロール クリーン作戦などで顔を合わせる機会が増えるのでは？		
		価値観の多様化	龍ヶ崎駅前 イルミネーション 大学生と地域の交流	交流の場、 交流の機会の 増加	行政・市民 防犯パトロール、 クリーンデイ、 バス旅行の 機会を増やすなど	↓ 経路の つぎあい・交流は 種類した方がよい！
	小中学校と 高校・大学の 地域との つながり	小学校・中学校、コミュニティセンターを活用したもの コミュニティセンターで申し込んで身分がわかるようにして、学校の華むしりに参加するとか。防犯もあるけれど、かわってほしい。 小学校での華むしりはPTAの呼びかけである。地域の方と一緒にできたら、学校行事の幅が広がるのでは。 子どもの社会性が身につくために、自治会でかわり合いがあることが理想。 子どもの登下校の見守りをPTAと地元のボランティアと連携ができれば理想。防犯面とかのねえいがネック	龍ヶ崎市 ワークショップ 企画は「龍崎会」 が担当しているのが 関係の方々が行った。 流大の社会人 向けの講座が あれば いいのでは。	地域と学校 (小中高大)の連携 イベント、運動会 などの機会の実施	行政 検討の場の 提供	市民 議論の参加 色んな意見が ある
	歴史・文化の 継承	コロケのまつり いがっぱ	龍ヶ崎出身の個人 の紹介を歴史で コーナーがあれば 継士愛が生まれる のでは？	龍ヶ崎市には 字がないのはなぜ？ - ことから地元の 歴史を知る コーナーもあったら		
		行事	龍崎の歴史の継承が行われていけば、撞舞など。	撞舞の継続	行政は 継続・伝承の 支援	祭の継続 市民の支援
		八坂のまつり、撞舞。流大とのつながり。学生が神輿をかつぐ。				
	交流と共助	多世代交流。昔のあそび。けん玉、たこあげ。 龍ヶ崎コミュニティセンター、小学生と昼休みに交流する日がある。 多世代交流。たこあげ、こま回しなど、日本人の遊びを年配者から教えてもらう機会がない。 商家さんとの交流。親子で昔のボランティア。息子の体験会があれば、子どもたちの社会性は高くなる。商家の負担になる？ 自助、公助、共助。地震などの災害の時、民生委員には限度がある。自治体の専任を認める。				

■グループCの成果

■「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、
女性活躍を実現するまち」にするためには

(1) 発表要旨

1つ目のテーマについて、5項目で提案を整理した。

①起業する人の環境・支援を良くする 人財を確保する では、起業家とまちづくり人材を結びつける仕組みが必要とし、行政には商工会・市役所・大学が連携する体制づくりが要望された。市民は外から来る人を歓迎し、受け入れやバックアップ、歓迎会などで支えるとした。

②大学との連携では、流通経済大学の学生にイベントの事業提案をしてもらい、行政が場所・予算・人員・専門家を確保し、市民はボランティアとしてイベントに参加するとした。

③地域文化・歴史の活用では、空き家を活かして芸術家を誘致し「芸術のまち」を目指す案が出たほか、現代アート、ガラス工場、漫画を作ってもらおうとの意見も出た。行政にはそれらの活動場所の手配を求めた。

④新しい産業の育成では、鰻や鯛の陸上養殖、食の体験型企画が提案された。コロッケで知られる地域性を活かし、ジャガイモ収穫など土に触れるイベントを農家と連携して行う。市民はボランティア参加に加え、アイデア出しや企画提案で関わるとした。

⑤女性活躍推進では、育児等の環境整備と、企業ごとの「女性が働きやすい基準」づくり、悩みを共有できる女性同士の場の提供を提案。行政は場の提供に加え、基準を達成した企業への助成や減税などで後押しし、市民はその場の運営を担う、という役割分担でまとめた。



☞ 【C班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
起業する人の環境・支援を良くする 人財を確保する	起業家をまちづくり人材とむすびつける	商工会・市役所・大学を連携する仕組みを作る	バックアップ
			歓迎会をする
大学との連携を深める	事業提案イベント	場所・予算提供	ボランティア
		専門家確保	
地域文化・歴史を活用	芸術家の人を来させる		
	現代アート		
	ガラス工場		スタンドグラス
	伝統的なおまつりに女性が参加		
	まんがを作る	アニメスタジオを作る	
新しい産業を育成する	陸上養殖 うなぎ・鯛など	農家の方たちに協力	ボランティア アイデア・企画出し
	職の体験 収穫イベント		
女性活躍推進	環境を整える	場所提供	市民が運営
	女性がふらっと相談できる場		
	女性が働きやすい基準づくり	基準達成した会社への減税・助成金	アイデア出し

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、
多様な働き方、女性活躍を実現するまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、女性活躍を実現するまちにするための目標

②「全ての企業や事業者の事業活動、起業・創業を支援するとともに、多様な働き方、女性活躍を実現するまちにするための」の「施策・取組み」と「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案		取り組む際の役割		
					行政にやって欲しいこと	市民ができること	
⑤ 産業・経済、市街地活性化（龍ヶ崎の活力づくり）	起業する人の環境・支援を良くする 人財を確保する	空き家を利用した職場を作る	起業家を 町づくり人材と むすびつける		商工会・市役所 ・大学を連携する 仕組みを作る	バックアップ	
		自然環境を利用した創造的な遊びの空間を作る。ワーケーション。					歓迎会をする
		新たに創業する人々に市は支援し、多くの会社をつくるべきだ。					
		駅前にも作る（龍ヶ崎駅）テレワーク					
		市民の参加する場所を増やす					
		龍ヶ崎駅周辺にワークスペースを提供する。					
	大学との連携を深める	大学に農学系の学部を作る	事業提案 イベント		場所・予算 提供	ボランティア	
		若者が起業をしたい人が多い					
						専門家確保	
	地域文化・歴史を活用	歴史と文化の町を標ぼうのできるモデルの場所を作る	芸術家の人を 来させる	伝統的な おまつりに 女性が参加	アニメスタジオ を作る	スタンド グラス	
		平安からの文化がある。	現代アート				
		アニメの町を目指して、各種取組み	まんがを作る				
	新しい産業を育成する	各企業のための研究所施設を市で立ち上げ、運営し、研究者の育成に努める。	陸上養殖 うなぎ・鯛 など	食の体験 収穫イベント	農家の方たちに 協力	ボランティア アイデア 企画出し	
		今どき、山で水産物を養殖する事ができるので、これらを支援して、新しい企業を作るべき。					
		新しい農業の発展推進					
ピカッと光る新事業							
女性活躍推進	市の食材を6次産業にするための推進がない。						
	福利厚生・育児休暇の推進	環境を整える	女性がふらっと 相談できる場所	場所提供	市民が運営		
		女性が 働きやすい 基準作り		基準達成した 会社への減税 助成金	アイデア 出し		

■「龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまち」にするためには

(1) 発表要旨

「龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまち」に向け、以下の3つのテーマに絞って議論を実施した。

①龍ヶ崎の歴史・文化をPR!では、文化財を守り活かすため、文化財保存活用地域計画へ取り組むことを要望した。牛久市や土浦市でも採用例があり、時間をかけて地道に進めることが重要であるとした。行政には計画の採用と推進を求め、市民も協力したいとまとめた。また、第1回では、市として「歴史文化のまち」を標榜するとの意見があった。これを標榜することで、各団体が別々に行っている保存・活用の取組を一つの枠組みにまとめ、共通の認識のもとで活動を行うことができる意義を強調した。

②空き家を利用した移住・定住の促進では、既存の空き家バンクが不動産紹介にとどまりがちな点を課題とし、龍ヶ崎版の「新しい空き家バンク」を提案。行政が入居者像まで設計し、起業家やアーティスト等の誘致につなげる仕組みづくり求めた。市民側は、例えば高校生など、若い世代が空き家をリフォームしたりカフェ等に活用したりして、若者が楽しめる使い方を広げる案が出た。

③龍ヶ崎ブランドをPRしよう 龍ヶ崎イベントをこまめにやろう では、これまで実績のあるイベントや取組を点ではなく面として「体系化」し、行政が大きな計画として市民に示すことが必要だとした。あわせてプロモーション専門人材の誘致や、まちづくり起業賞のような表彰制度の検討も挙がり、市民はスモールビジネスの企画や、交流拠点の利用者に声をかけてまちづくり参加を広げることが提案された。



☞ 【C班】発表中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
龍ヶ崎の 歴史・文化 をPR!	文化財保存活用地域計画	やる気を出す	
		予算を取ること	
		専門人材確保	
		「歴史・文化の町」 という言葉にして 標榜する	歴史資源の周知と 活用
		資料で残す	
		文化・歴史を調査して 把握すること	
		文化・歴史の格 小野瀬邸と路地	町屋活用イベント
空き家を 利用した 移住・定住 の促進	空き家バンク 新しい仕組み	市が空き家を市民に貸す	高校生が運営する 交流の場
		アーティストイン レジデンス	
		空家に企業家を	
龍ヶ崎 ブランドを PRしよう 龍ヶ崎 イベントを こまめに やろう	シティプロモーション計画	「まちづくり起業賞」 創設	スモールビジネス
		企業家ネットワーク	リンク利用者を まちづくりに 市民団体から誘う
		企業家の支援	
		助成金援助 ノウハウ提供	コーディネートする 人が必要

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「龍ヶ崎の魅力を高め、
地域交流や移住・定住が進むまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまちにするための目標

②「龍ヶ崎の魅力を高め、地域交流や移住・定住が進むまちにするための」施策・取組みと「取り組み際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案	取り組む際の役割	
				行政にやって欲しいこと	市民ができること
⑥観光交流、 情報発信、 移住・定住 (地域間交流と魅力づくり)	龍ヶ崎の 歴史・文化を PR!	歴史・文化の紹介ができる人材は？案内人検定 相撲部屋がある 古い神社・仏閣を利用していない 中島製菓の工場跡を、昭和の工場博物館として開設し、観光客を集める。 日本文化の紹介ができるようにする。 文化・歴史の豊かさが伝わっていない。 歴史文化の町を標榜する 龍ヶ崎の古い資産を利用していない。 龍ヶ崎の古い建物を利用した観光スポットを作る	文化財保存活用 地域計画	やる気を出す 龍ヶ崎の文化歴史を調査して把握すること 予算をとる事 文化・歴史の格小野瀬邸と路地 専門人材確保 「歴史・文化の町」という言葉にして標榜する 資料で残す	地域計画の市民の手伝い 歴史資源の周知と活用 町屋活用イベント
	東京から近い!! けど自然もあり	東京に近い 東京に近い田舎くらしを推進。PR不足 東京が近い。ポテンシャルが高い。都会に近い+田園風景が売り 龍ヶ崎の自然を活用していない 子育て環境をよくする 東京で龍ヶ崎の魅力をPRする 関東では龍ヶ崎がどこにあるか知らない。東北地方と勘違いされている。 農業向上をもっと推進するべき 東京から近いをPRしていない。 子育て環境をPRしていない。空気が良いので、小児ぜんそくが良くなる、良い環境。			
	空き家を利用した移住・定住の促進	空き家を利用して移住体験をしてみよう 空き家を利用した民泊事業推進 移住・定住の推進が図られていない	空き家バンク 新しい仕組み	市が空き家を市民に貸す 空き家に企業家を アーティストインレジデンス	高校生が運営する交流の場
	龍ヶ崎ブランドをPRしよう 龍ヶ崎イベントをこまめにやろう	龍ヶ崎ブランドを活用していない 「龍」の字のデザイン、目を引く。 龍ヶ崎の良さを他の都市と比べて良い所をあげ、PRする。 モルック体験会といった、老若男女が関わられる交流がある。 流大がある お米が魅力。良いところがたくさんあるのに、誰も知らない。 牛久沼がある。全国の市町村の中で良い所と姉妹都市を作る。 竹灯籠祭を市でPRしていない。 市民が喜ぶイベントが少ない。	シティプロモーション計画	企業家ネットワーク 「まちづくり起業賞」創設 企業家の支援 助成金援助 ノウハウ提供	スモールビジネス 市場がある リンク利用者を町づくりに市民団体から誘う コーディネーターする人選
公共交通の充実	無人タクシーの町にする。(公共交通) 竜鉄があるので利用 駅に何も無い →不便に感じる				

■グループDの成果

■「激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまち」にするためには

(1) 発表要旨

「激甚化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまち」に向け、議論を3テーマで整理した。

①人とのつながりによる災害対応は、情報・若者・活動の3点で整理した。まず情報では、災害前に危険箇所を把握するため、町内の情報交換や班の集まりといった人とのつながりを基盤にしつつ、市ホームページ等も活用して周知することが必要とされた。行政には、情報の最終管理者として、地域の集まりや集会情報を各家庭に確実に伝える仕組みづくりを求め、市民側はボランティア証明書の発行など参加の見える化、町内会公式LINEでの発信などを担う。次に、若者については、自治会広報の配布に加え、コンビニや掲示板等で資料を配布し、繰り返し目にすることで防災への関心が高まるといった意見が出た。行政には、マーケティング部門を庁内に設ける、または外部委託することが挙げられ、市民の側では、若者によるLINEの使い方講座などで、世代間の情報格差を埋めるなどの提案があった。最後に、活動については、防災の日(9月1日)に市役所でイベントを行うこと、市内各地の防災動画発表会を市YouTubeで実施することを行政に求め、市民は避難訓練を実施するとした。

②どうしたら水害発生時に被害者を抑えられるかについては、こちらも情報と活動に分けて整理を市、情報においては、コミュニティラジオの検討やマンション居住者向け防災教室を提案し、行政はHPやSNSで周知すること、市民は不動産会社と連携してハザードマップ共有を進めるとした。活動については、防災キャンプを実施の提案があり、行政は消防団と連携したイベントを開催、市民は参加するとした。

③龍ヶ崎市の防犯として何が大事かについては、街灯不足や防犯カメラの必要性が挙げられ、行政は街灯増設や人通りの多い場所の安全対策を進め、市民は行政へ要望・依頼して改善につなげるとした。加えてゴミ出しの多言語表記を提案し、広報で周知しつつ、日頃から近所のつながりを意識することが重要だとまとめた。



【D班】グループワーク中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
人とのつながりによる災害の対応	町内（班）情報交換。 班の集まりによる人のつながり	各家庭への集まりへの声かけ	
	市のホームページを活用する	最終的に市で管理する （バラバラは無理）	若い世代の町内会 参画として、町内会 公式 LINE からの発信
	自治会の役割明確		若い世代の町内会 参画として、ボラン ティア証明書の発行
	コンビニエンスストアや掲示板等 で多く貼り、強く認識させる	マーケティング部門を 市役所で作るか、 外部に委託する	若者が LINE の使い方 講座
	自治会に広報を配布する。		
	防災の日にイベント実施	市役所で実施	避難訓練の実施 （自治会・町内）
	市内各地域での防災動画発表会	市のユーチューブで共有	
どうしたら 水害発生時 に被害者数 を抑えられ るか	龍ヶ崎市の コミュニティラジオ局を作る	SNS（ホームページ）で 存在を認知 市のホームページ、 SNS の発信方法の改善、 わかりやすさ重視	市内の不動産会社に ハザードマップの 共有を依頼して 協力してもらう
	マンション居住者向け防災教室		
	防災キャンプの実施	自治体・消防団と連携 したイベントの開催	市民の参加
	防災無線が聞きづらい	YouTube で防災無線の 共有	
龍ヶ崎の防 犯として、 何が大事か 必要か	設備の増加	該当を増やす一通りの 多い場所の調査	行政に対しての依頼
	空家処分法についての積極的発信	空家処分法についての 積極的発信	
	自治体のゴミ出し等について、 日本語と英語の表記	広報で周知	

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「激化する自然災害や
日常生活の危険から市民を守るまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■激化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまちにするための目標

②「激化する自然災害や日常生活の危険から市民を守るまちにするための」施策・取組みと「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案	取り組む際の役割						
				行政にやって欲しいこと	市民ができること					
⑦防災・暮らしの安全・安心(安心・安全を実感できる環境づくり)	情報	自治会ごとに専用のLINEを作る	町内(3班)の情報交換。班の集まりによる人のつながり	市のホームページを活用する	自治会の役割明確	各家庭への集まりへの声かけ	最終的に市で管理する(バラバラは無理)	若い世代の町内会参加として町内会公式LINEからの発信	ボランティア証明書の発行	
		市の情報共有ツールの作成								
		若い人が自治会に入りやすい環境づくり								
	若者 人との つながり による災害 の対応	町内で情報を取りまとめることのできる人材(有償で)を見つける。								
		町内・地域の防災の取り組みのプロモ動画撮影PR								
		若者が使用しやすいSNS(インスタ・X等)で情報を発信する 若者の方が集まりやすい場所に広報(チラシ等)を置く	コンビニエンスストアや掲示板等で多く貼り、強く認識させる	自治会に広報を配布する。	マーケティング部門を市役所で作るか、外部に委託する	メリットの強調・明確化	若者がLINEの使い方講座			
	活動	学校で防災・防犯教室を行い、シミュレーションも行う								
		自治会単位で防災イベント実施(つながりをつくる！) 防災取り組み。ウェルビーイングへの取り組み					9月防災の日イベント市役所にて	市内各地域での防災動画発表会市のYouTubeで共有	避難訓練の実施(自治会・町内)	
		市役所防災関連の出席講座								
	情報	LINEでハザードマップを送信して、水害を知らせる			龍ヶ崎市のコミュニティラジオ局を作る!!		SNS(HP)で存在を認知	市のホームページ、SNSの発信方法の改善、分かりやすさ重視	市の不動産会社にハザードマップの共有を依頼して、協力してもらう	
		市のハザードマップ周知								
		龍ヶ崎市のコミュニティラジオ局を作る!!								
活動	学校やコンビニ等でも水害の情報を配布する	マンション居住者向け防災教室								
	垂直避難の徹底									
	水没箇所の把握									
活動	自助・共助・公助の自助の大切さを伝える									
	防災バッグの準備を呼びかけ(市内放送)									
	消防団との情報連携	防災キャンプの実施	防災無線が聞きづらい	自治体・消防団と連携したイベントの開催	YouTubeで防災無線の共有	市民の参加				
設置	道理に街灯が少ないため、少し増やす					街灯を増やす人通りの多い場所の調査		行政に対する依頼		
	防犯カメラの設置強化	設備の増加								
	警備体制の強化(交番等)									
2	市内に住む方へSNSを使用し、施策の徹底						空室処分法についての積極的発信			
	空き家対策									
	防犯教室を開き、実際に体験して対応できるようにする									
3	外国人との交流の機会をつくる	自治体のゴミ出し等について、日本語と英語の表記				広報で周知				
	多言語による防災防犯マップ作成と共有									
	ご近所付き合い									
	あいさつ声かけ									
	市駅西口。駅前活用したイベント(防犯・防災含めた)									

■「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまち」

にするためには

(1) 発表要旨

「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまち」を目指し、議論を2テーマで整理した。

①何をして人口を増やすかでは、まず市民同士だけでなく市民と行政の「つながり」を強めることが重要とし、市議会議員とのタウンミーティング増加や、まちづくり市民ワークショップの継続開催を提案した。行政には、ワークショップの定期開催を求め、市民は参加、とくに若者が参加して新しい意見を反映させることが挙げられた。また、若者向けの施策としては、起業創業マインドの醸成や住宅整備に加え、行政が市周辺へ企業を呼び込み、雇用と駅周辺の発展につなげる案が出た。また通勤利便性として、龍ヶ崎市駅に朝1本・夜2~3本停車する特急が、東京方面からくる方には周知されていないとし、市外へ積極的に周知すべきとの意見もあった。加えて、コロッセフェスやアート等の魅力を深掘りし、YouTube 動画、コロッセ自販機の設置などのほか、たつのこやまの呼称をたつのこ富士に改めるなど、新しい取組が周知につながるのではないかとの意見があった。行政は、観光協会と連携して周知し、市民は企業広告や Instagram 等での発信を担う。地域通貨の金券の電子化も提案された。

②移動手段に何を加えるべきかでは、竜ヶ崎線の本数増加が最重要とされ、駅へのアクセスの弱さを補うためレンタサイクル導入を提案。行政は自転車導入と駅周辺への企業誘致で利用者増を図り、本数増につなげる。市民は積極的に利用し、地域で消費する。さらに電子マネーで竜ヶ崎線や関東鉄道の路線バスに乗れ、ポイントや割引が付く仕組みがあれば利用促進になる、という意見も出た。



【D班】発表中の様子

(2) シート記載内容

テーマ	施策の提案	行政にやってほしいこと	市民ができること
何をして人口を増やすか	市議会議員との タウンミーティングを増やす		市民の参加 若者の参加
	まちづくり市民ワークショップ の継続的な開催	まちづくり市民ワーク ショップの継続的な開催	
	常磐線特急が JR 龍ヶ崎市駅に 停車することをアピール	関東鉄道竜ヶ崎駅周辺に 企業を呼び込む	
	アピール点の深堀		
	YouTube で自主制作動画を作る	観光協会との連携	
	コロケの自動販売機		
	たつのこやま→たつのこ富士へ ドラマ等のロケ地として 使ってもらう	SNS 等で積極的に アピール 観光協会との連携	SNS で告知
	求人広告を出す	市の SNS で求人広告を 掲載するページを作る	企業側は求人広告を 出す
	ボランティアポイント制度の 電子化		
	ポイントの方が現金よりも 安くする		
龍ヶ崎市の 移動手段に 何を加える べきか	関東鉄道竜ヶ崎線の本数増加	関東鉄道竜ヶ崎駅周辺に 企業を呼び込む	公共交通機関を 利用する
	地域通貨の電子マネーを作り、 利用すると市民はポイントが 付くようにする	関東鉄道竜ヶ崎線の利用 アピールをする	
	市が管理する自転車の貸し出し サービス	レンタルできる自転車の 購入	積極的に利用する

■第2回 ワークショップのテーマ

○第1回WSでまとめた5つのテーマに沿って、
施策や取組みを提案してください。

「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が
確保され、暮らしやすいまち」にするためには

①各分野について“こんな暮らしができるまち”の目標を設定しましょう。

■人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまちにするための目標

②「人口減少・高齢化が進む中でも、生活利便性や移動利便性が確保され、暮らしやすいまちにするための」の「施策・取組み」と「取り組む際の役割」を提案してください。

分野	テーマ (5つ)	考えたいこと	施策の提案		取り組む際の役割			
			行政にやって欲しいこと	市民ができること				
⑧生活環境・都市計画「暮らしやすいまちの基盤づくり」	つながり ①	行政の人達との顔の見える関係性	市議会議員とのタウンMTGを増やす	まちづくり市民ワークショップの継続的な開催		市民の参加 若者の参加		
		市民提案制度の復活						
	若者向け ②	起業創業マインド	特急が止まることをアピール →東側に通う人を呼び込み		竜ヶ崎駅周辺に企業を呼び込む			
		住宅地の整備						
	イベント ③	関東鉄道以外にもコロッケをアピールする						
		発信者イベント(インフルエンサーの集い)						
		アートイベント						
		空家を利用した魅力の創出(キャンプ場)	アピール点の深掘り	YouTubeで自主制作動画を作る	観光協会との連携			
	何をして人口を増やすか	雑舞の積極的な発信						
		コロッケフェスティバルをよりアピールする		コロッケの自販機(例:オランダ)				
		たつのこフィールドでの大昭益踊り大会	たつのこ山 ⇒たつのこ富士へ	ドラマ等のロケ地として使ってもらおう	求人広告を出す	SNSなどで積極的にアピール	市のSNSで求人広告を掲載するページを作る	
		SNSなどで、魅力呼びかけ(行政、自治会)			観光協会との連携		Xやインスタでの告知	
	④③	関係人口増加させる					企業側は求人広告を出す	
		道の駅跡地をトラック専用休憩スペースに						
		既存の制度を強化し、他市にはないものを作る						
		ご当地ヒーローでアピールして、子どもに注目をあびせる						
			地域通貨電子マネー	ボランティアポイント制度の電子化	現金よりも安くする			
	龍ヶ崎市の移動手段に何を加えるべきか	都市部へのアクセス整備(高速道路・一般道・電車等)	既存のバスや電車の時間を少しでも増やす	竜ヶ崎線の本数増加	地域通貨の電子マネーを作り、利用すると市税はポイントがつくようにする	竜ヶ崎駅周辺に企業を呼び込む	行政の方で閑鉄竜ヶ崎線の利用アピールをする	市民が公共交通機関を利用する
			竜ヶ崎線の本数増加 バスの路線増加					
		高速道路の拡充						
国道6号線の整備								
コミュニティタクシー								
電動自転車とヘルメットの貸し出し		市が管理する自転車の貸し出しサービス			レンタルできる自転車の導入		積極的に利用する	
人力車 トクトク								
バス停の近くに自動販売機等を設置する								
高齢者の代替移動手段の拡充(乗合タクシーの減額)								
コンパクト化(各地域で)								
コミバス時刻表のアプリ化と周知								

